

兵庫県立コウノトリの郷公園等での研修

1. 概要

SR科1年生の、「理数探究基礎」の一環で、「兵庫県立コウノトリの郷公園」および、「豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地」に行き、環境学習を行った。（「豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地」研修は荒天のため中止）国の特別天然記念物であるコウノトリの、地域ぐるみの保護・増殖・野生復帰に関わる取り組みに触れる中で、試行錯誤をしながら環境保全に挑戦している様子を学んだ。

2. 仮説

- ① 環境問題を考える際に判断の元となる知識を、体験を通じて身につけることができる。
- ② 環境保全の取組を研修することで、生物多様性保全の観点を身近に感じることができる体験となる。

3. 経緯と状況

4～6月 計画 7月 実施 7月 評価

4. 事業の内容

実施日時 令和6年7月11日（木）
実施場所 兵庫県立コウノトリの郷公園、豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地
参加人数 SR科1年 40名
内 容 コウノトリの保護増殖と野生復帰についての講義受講及び戸島湿地で講義受講と野外活動
指 導 兵庫県立コウノトリの郷公園 社会教育推進専門員 岡田 厚志 先生
社会教育推進専門員 椿野 亮二 先生
豊岡市立ハチゴロウの戸島湿地 指定管理者 日本コウノトリの会 代表 佐竹 節夫 先生
日本コウノトリの会 永瀬 倖大 先生
特定非営利活動法人コウノトリ市民研究所主任研究員 北垣 和也 先生



5. 事業の効果とその評価

環境保全活動の体験をした。このことを通じて人と自然との共生があり、そのための地道な活動の一つ一つがかげがえのない環境保全につながっていることに生徒達は気がついたようである。

【深く洞察し、解決する力】研修・実習について、内容を理解している。前2.5→後3.5

【多様な視点で見る力】研修・実習についての意図や背景を幅広く理解できる。前2.5→後3.5

兵庫県立人と自然の博物館研修

1. 概要

博物館の研究員の方々から専門分野の講義や実習を受け、加えて博物館を見学し、研究について質問をする。

2. 仮説

専門的な講義や実習、博物館見学、研究員の方との質疑応答によって視野が広がる。

3. 経緯と状況

4～6月 計画 10月 実施 11月 評価

4. 事業の内容

実施日時：令和6年10月22日（火）
実施場所：兵庫県立人と自然の博物館
参加人数：SR科1年 40名
内 容 （1）講義・実習「化石のレプリカをつくる」
（2）実習「野外での昆虫調査方法」 （3）講義 「博物館と人と自然の博物館について」
指 導 同館 八木 剛 事業推進部長、竹中 敏浩 特任研究員、
兵庫県立大学 生野 賢司 客員研究員



5. 事業の効果とその評価

【多様な視点で見る力】研修・実習についての意図や背景を幅広く理解できる。前2.7→後3.5

【深く洞察し、解決する力】研修・実習について、内容を理解している。前2.7→後3.5

人と防災未来センター研修

1. 概要

阪神淡路大震災や東日本大震災を経験し、事前に災害に備えることの必要性を強く思い知らされた。その経験をもとに、地震の仕組みを学び、災害に対して、どのようなことを準備すべきかを兵庫県立大学大学院減災復興政策科の取り組みから学ぶ。

2. 仮説

講義などを通して、災害時の備えを学び、減災のための取り組みを考えることが出来るようになる。

3. 経緯と状況

4月 計画 6月 打合せ 7月 実施

4. 事業の内容

実施日時 令和6年7月30日(火)
実施場所 人と防災未来センター、兵庫県立大学大学院減災復興政策科研究室
参加人数 SR科1年38名、普通科2年3名
内 容 人と防災未来センター研究員による防災セミナー、館内見学
講義「阪神・淡路大震災、東日本大震災から学ぶ防災教育」
兵庫県立大学大学院減災復興政策科 浦川 豪 教授



5. 事業の効果とその評価

仮説について、以下の問いに「当てはまる」または「やや当てはまる」と答えた生徒は以下のとおりである；「内容が面白かった」：97%、「自分の知識を高めるのに役に立った」：97%。印象に残ったものとして、「阪神・淡路大震災の映像」等が挙げられた。「GISの有用性についての学びがあった。」等の感想がみられた。

国立淡路青少年交流の家地学研修

1. 概要

国立淡路青少年交流の家において、地質講義、地学実習、天文講義、望遠鏡操作実習、天体観測などの実習を行った。また、和泉層群の差別侵食により形成されたと考えられている鳴門海峡や兵庫県南部地震の震源域にある野島断層で講義を受け、見学を行った。

2. 仮説

地質講義を通して地層の成り立ちや和泉層群についての知識を身につけ、実習や見学を通して理解を深めることができる。天文講義、望遠鏡実習を通して、基本的な観測技術を身につける。

3. 経緯と状況

4~7月 計画 8月 実施 9月 評価

4. 事業の内容

実施日時 令和6年8月22日(木)~8月23日(金) (1泊2日)
実施場所 国立淡路青少年交流の家(兵庫県南あわじ市阿万塩屋町757-39)、大鳴門橋遊歩道
渦の道(徳島県鳴門市鳴門町)、野島断層保存館(兵庫県淡路市小倉177番地)
参加人数 科学研究部天文班および希望者 合計28名
内 容 (1)地質講義・実習 (2)天文講義、望遠鏡操作実習、天体観測
(3)鳴門海峡見学 (4)野島断層 講義・見学
指 導 国立淡路青少年交流の家 所長 西岡 敬三 氏



5. 事業の効果とその評価

【課題設定する力】講義、実習を通して、仮説を検証するための方法について考察することができた。

【協働で参画する力】観察結果についてグループで話し合い、地学、天文についての理解を深めることができた。

西はりま天文台天体観測実習

1. 概要

兵庫県立大学 西はりま天文台において、天文講義、望遠鏡操作実習、観望会参加、天体観測などの実習を行った。

2. 仮説

天文講義、「なゆた望遠鏡」などで天体観測を通して、天体観測の魅力を感じ、天文について知識を高める。

3. 経緯と状況

6~12月 計画 12月 実施 1月 評価

4. 事業の内容

実施日時 令和6年12月24日(火)~12月25日(水) (1泊2日)
実施場所 兵庫県立大学 西はりま天文台 (兵庫県佐用郡佐用町西河内407-2)
参加人数 科学研究部天文班および希望者 計33名
内 容 講義・実習「天文学講義基礎および観測実習」



5. 事業の効果とその評価

【課題設定する力】講義、実習を通して、仮説を検証するための方法について考察することができた。

【協働で参画する力】グループで話し合い観察計画の立案し、協働して天体観測を行うことができた。